

2012 年春期幹事会・記念講演

全国通信三田会 2012 年春期幹事会記念講演要旨

日時: 2012 年 05 月 26 日(土) 15:15~16:15

場所: 静岡県教育会館・4階大会議室



演 題: 大航海時代の駿府

~徳川家康の輝かしき駿府大御所時代~

講師: 黒澤 脩(郷土史家・元静岡県立大学非常勤講師)

はじめに

ただいまご紹介を頂きました黒澤と申します。私は長いこと、静岡市教育委員会に勤めておりました。現在、退職して5年を経過しております。さて本日、皆さんにお話しする駿府、つまり静岡の大御所時代は世界的にも国内的にも大変なエポックを形成した時代であったことを1時間程度、お話しさせて戴きたいと思っています。

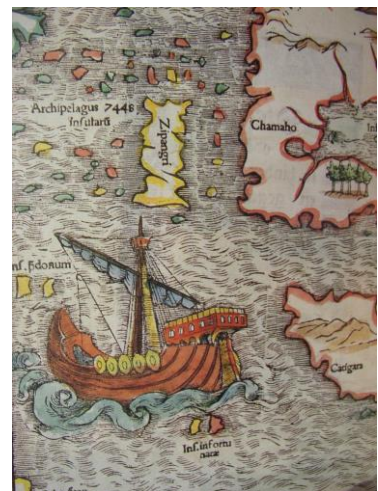
このタイトルの内容は、静岡の人も全国の方々もあまり知らないお話です。静岡市役所在職中、私は市長の特命で駿府城の天守閣調査を5年間ほど「静岡市駿府城天守閣調査主席調査員」として担当してまいりました。国内や国外、およそ500箇所を調べてまいりましたが、東京大学の大学院教授ロナルド・トビ先生から、「静岡(駿府)という所は大変な所だ」ということを何度も聞きました。それ以来、静岡のことを中心に調べて、今日に至っております。

現在、静岡の駿府城には天守閣はありませんが、江戸城でもなく、名古屋城でもなく、京都の二条城でもなく、この駿府城こそが日本の中心になった城であり、江戸の二代将軍秀忠に代わって行われた徳川家康の駿府大御所政治の舞台であったことはあまり知られておりません。ところが海外の研究者が、江戸でなく、徳川家康の駿府大御所時代に注目していたのは、ここが大航海時代の日本の中心だったからであります。

大航海時代の日本の中心は駿府だった

大航海時代の幕を切って落としたコロンブスも、実はジパング(日本)を目指していました。このことを背景として、今日は駿府大御所時代を皆様にご紹介したいと思います。そしてジパングの首都、それは駿府であったことがご理解いただけるとと思います。

コロンブスがアメリカ大陸に到達してから50年後に、徳川家康は三河で誕生しています。さらにそれから50年後には、家康周辺と日本の価値観が大きく変質した時代に突入します。多くの外国人の来日によって、日本は大きく変わってきます。決定的な出来事は、徳川家康が、大御所の地として静岡つまり駿府に來たことであります。駿府に來た家康は65歳で、二代将軍秀忠にすべてを譲ってきたかに見えますが、実際は駿府を中心に、江戸幕府の政權を動かして



北米の西側に描かれたジパング



ヨーロッパからみた地球の裏側の日本
(TRIC 東海大学情報技術センター)

いたのです。これを駿府大御所政治といいます。

この大切な時代ですが、世界的にみると徳川家康のこの時代の研究は国内の研究者の間では非常に遅れています。特に「日本人の学者は、徳川家康のことを真剣に研究していない。また、基本的な文献を使用していない」と指摘するのは、外国人研究者であります。このことは後でお話しします。大航海時代という世界的規模で人々が行動した時代のなかで、

その終着点は駿府であり、駿府はジパングの首都であり、ジパングの王様は徳川家康ということになります。ここで大航海時代を少し振り返ってみます。

いまリスボンの港には、大航海時代のモニュメントがあり、これは大航海時代を象徴する世界的シンボルとなっています。こうして地球上の地理的視野の拡大が行われると、デマルカシオンと呼ばれる、スペインとポルトガルが地球を独占的に半分ずつにしてしまうことが行われた。つまりポルトガル人はアフリカ南端を経由してインド洋へ、スペイン人は大西洋を横断してアメリカへと進路を進めました。その地球の裏側、そこがフィリピンであり、日本であったのです。両国は、この地域を巡り、やがて対立の構図へと展開していきます。

デマルカシオンとは、トルデシリャス条約(1494年締結)と呼ばれる、両国の対立を避けるためローマ教皇アレクサンデル 6 世の裁定によって決められた新領土の分割方法。その裏側の日本で、両国の対立は駿府大御所時代に勃発します。

さて、コロンブスのアメリカ大陸発見以来、大航海者たちはみな日本つまりジパングを目指しました。マルコ・ポーロが『東方見聞録』を書いて、ジパングという黄金の国(エル・ドラード)があると紹介したのが、すべての発端です。それから大航海時代が始まりますが、その原点は、中尊寺の金色堂(世界遺産)のことを聞いていたからと思われま

す。当時の大航海時代を象徴する建造物は、世界の要所に存在します。たとえば、リスボンの港、ロンドン、マドリッドの王宮、ローマのジェス教会、ポルトガルのジェロニモス修道院、それに日本では駿府城が世界から注目されておりました。人口規模で申しますと、当時のロンドンの人口は駿府とほぼ同じ12万人と云われています。因みに当時の京都市は30万人と云われていますから、世界最大の都市であった可能性があります。日本の都市は江戸も駿府も大坂も大きく、かつ清潔な都市であったことは外国人が立証しています。

リスボンのジェロニモス修道院は、大航海時代の富をつぎ込んで建築され、イエズス会の本部として大航海時代の引き金となった教団でもあり、キリスト教の海外布教は、この教会から始まります。貿易も実施していたイエズス会の宣教師たちは、海外の富をヨーロッパに運び込み、世界の富を独占しようと試みますが、徳川家康は日本国内の良質な金銀を集積し、「駿府ゴールドラッシュ」を築いていたことが、金沢大学の北条文庫の古文書に登場します。さらに



金沢大学 北条文庫から



地球を語るウィリアム・アダムズ(すんぶ夢ひろば蔵)

峽を通過して来日した最初のイギリス人ウィリアム・アダムズやスペイン人たちに言及したいと思います。大御所時代の駿府でいろいろなことが起こっていました。日本の歴史の本にはほとんど登場しない大切な事柄が、海外の文献によって明らかになっております。たとえば、駿府で活躍した外国人を取り上げて大勢登場します。ジョアン・ロドリゲス（ポルトガル）、ルイス・ソテロ（スペイン）、ジョン・セーリス（イギリス）、リチャード・コックス（イギリス）、ヤコブ・クワケルナック（オランダ）、ジャック・スペックス（オランダ）、アロンソ・ムーニョ（スペイン）、セバスチャン・ビスカイノ（スペイン）などがいました。

特にジョアン・ロドリゲスは15歳で来日し、論語も一生懸命に勉強し、家康とも深く関わった大変な人物でした。彼は日本のティーセレモニー（茶道）や礼儀作法や躰をヨーロッパに紹介した人物です。それがヨーロッパでのティータイムに発展し、また紳士淑女であることを広めたことが報告されています。つまり日本の良い習慣やマナーをヨーロッパにもたらした、まさにクール・ジャパン（日本独自の文化が海外で評価を受けている現象）の原点は、駿府に、その多くを見出すことができるのです。



重文の洋時計(久能山東照宮蔵)

この事実がスペイン国王に報告されると、国王はセバスチャン・ビスカイノ（スペイン海軍総督）をお礼の大使として駿府に派遣し、この時計がスペイン国王から徳川家康に献上されます。最近、大英博物館の研究員がこの時計を鑑定した結果、これは16世紀の技術で作られた世界最高傑作のゼンマイ式西洋時計で

「家康は、武器の生産を蜂須賀や大友、芝辻らに命じて世界一の富と重火器を用意していた」と述べたのが、日本に初めて来たウィリアム・アダムズの証言です。つまり駿府大御所時代の徳川家康は、世界一の富と世界一の鉄砲を保有していたと云われています。ちなみに鉄砲の保有量については、家康は30万丁を越えて世界一と云われています。

さて、話が前後しましたが、マゼラン海



『駿府旅行記』著者ジャック・スペックス

時計が語る大航海時代

いま大航海時代の出来事のひとつとして、全国で話題になっていることがあります。それは国宝である久能山東照宮に保管されている洋時計です。この時計は大航海時代の申し子であり、途方もない歴史がその背後に隠されています。かいつまんでお話ししますと、房総半島沿岸で遭難し救助されたスペイン人の高官（ドン・ロドリゴ フィリピン臨時総督）と乗組員を、家康は手厚くもてなし、ウィリアム・アダムズ造船の船で、メキシコのアカプルコへ彼らが無事に送り届けた快挙があります。



あることが立証され、大きく報道されました。この時計の背後に隠された歴史や文化は、長い航路(大西洋→メキシコ大陸→太平洋)を越えて、日本の大御所徳川家康に献上されたモノということになります。この時計こそ、大航海時代を証明するモノの世界遺産であると評価されました。久能山東照宮では、この時計を国宝に申請し、さらにユネスコに申請し、「モノの世界文化遺産」にしようと、今その活動が動きはじめています。このことは最近

ドン・ロドリゴ テレビの全国放送で流れ、知っている方も多いのではと思います。

当時は、マドリッドからメキシコ、フィリピンを経由して、貿易風を捕えて日本に回って来る航路が常識でした。ところがセバスチャン・ビスカイノは、アカプルコから太平洋を渡って直接日本に乗り込んで来ました。当時のスペイン人の高度な航海技術を証明しています。そして駿府城で家康と会見し、ハンス・デ・エロバ制作のこの時計を献上しました。贈ったのはスペイン国王フェリーペ三世です。これらの出来事の顛末は、セバスチャン・ビスカイノがスペイン国王に復命した報告書『金銀島探検報告記』に詳しく記されていますので、ご覧ください。雄山閣出版の異国叢書に所収されております。

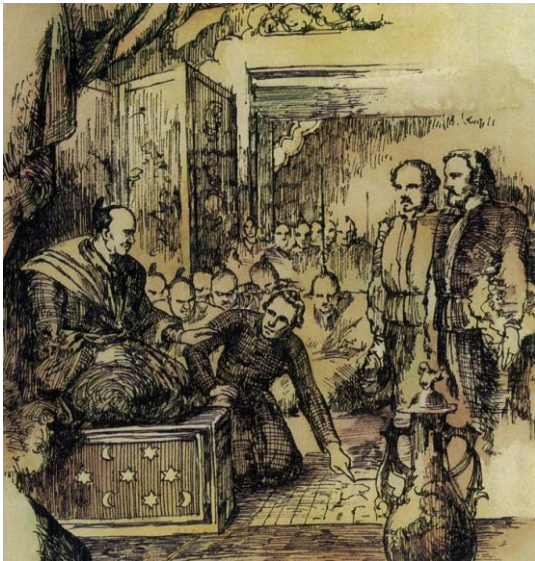
ヨーロッパからの国王使節が駿府へ

スペイン国王は確かに時計を家康に贈りましたが、実はスペイン人も裏では日本を研究し、あわよくば日本を植民地にしようという腹があったことが、この報告書で窺うことができるのです。家康は家康で、スペイン人の高度な技術を反対給付として求めていたことも知られるところでもあります。スペイン人の行動に警戒するよう家康に言上した人物、それがウイリアム・アダムズでした。スペイン人の野望は、アダムズに見破られていたのです。

こうしたことは、日本では全く語られていませんが、最近になってイギリスの数人の研究者が出版した本に記されております。そのひとつがP・G・ロジャーズの著書『日本にきた最初のイギリス人』で日本語に訳された分かりやすい待望の書物となっています。駿府のことについては、かなりの紙数を費やしています。

また、この裏側でのスペインの状況を記した本、それがスペイン人パステルによって著された『16-17世紀 日本スペイン交渉史』であり、両者を比較すると鮮明に読みとれます。これらのことを記述した当時の古記録も、その幾つかが、大英博物館や大英図書館に保管されております。また、時計を家康に届けたビスカイノも、彼の著書で駿府城のことなどを記述しています。それによると、駿府城は規模は小さい城だが世界で最も綺麗なお城であり、関係者がこの城を厳重に警護していた様子、それに駿府の町はメキシコのソカロ広場(メキシコシティ)の町よりも大きいことなどが書かれています。

やがて、オランダやイギリスの人たちが家康の傍で通訳として活躍すると、家康は、世界情勢をより正確に理解していきます。当時、ヨーロッパでは、ポルトガルやスペインの旧教国とオランダやイギリスの新教国とが紛争中であることや、彼らに領土的野心があることを知り、家康は、ポルトガルやスペインよりも、新しいオランダやイギリスを中心とした外交へとシフトしていきます。



駿府城内で家康に謁見するイギリス国王使節

そんな頃、オランダ国王使節が駿府にやって来ます。オランダ船の乗組員の一人ジャック・スペックスは、ウィリアム・アダムズと一緒にリーフデ号で来日した人物です。彼は日本語を覚えて帰国を許されました。その彼が、オランダ国王に日本の状態を話すと、国王はニコラース・ポイクを団長として日本に使節を派遣して来ました。この時、ジャック・スペックスは、オランダから駿府までの記録を『駿府旅行記』として書き綴り、旧友アダムズと再会したことにも触れています。この本は、ドイツのカールスルーエの図書館で見つけられ、オランダ研究家の金井圓氏が『日蘭交渉史の研究』(思文閣)で報告しているだけで、その内容が広く世に出ていない現状です。非常に残念です。

また、私の駿府城天守調査では、オックスフォード大学で閲覧した史料から、駿府には武士の教会や庶民の教会があったことを記述した史料があることも通訳を通じて情報を入手しました。その後、アダムズがイギリス本国に送った手紙を見て、イギリス国王は駿府にイギリス使節を派遣します。その使節も駿府城下町のことを詳細に書いています。興味ある点は、駿府の町がこの時代に既に公害を意識した画期的都市計画であったことを著者ジョン・セーリスが見聞き、それを記述しています。

家康がイギリス使節と会見している様子をダルトンが描いた挿絵もあります。それによると、アダムズは「座って会見して欲しい」とイギリス使節に要請するが、イギリス人は「自分たちにはそのような習慣はない」と言って断るのです。そこで、結局、落語の高座のような台に家康が座り、アダムズが通訳している興味あるイラストが描かれました。

アダムズ、大御所家康に情報提供

徳川家康が駿府からオランダに送った国書は現在、ハーグ国立文書館に保存され、オランダの国宝になっております。静岡市にある「すんぷ夢ひろば」には、徳川家康ミュージアムがあり、家康の精巧な蠟人形を飾っております。これは余談ですが、これは、アダムズが金地院崇伝に、地球は丸いことを説明している場面です。金地院崇伝は「それでは地球の裏側にいる人は下に落ちてしまうのでは」と問いかけると、アダムズは「そんなことはない、地球上はどこにいても天があり地がある」と答えます。(図参照)。

この頃、ヨーロッパでは、大変な科学者や文学者が輩出しています。たとえば、ダ・ヴィンチ、コペルニクス、ガリレオ、ケプラー、文学者ではシェイクスピアやセルバンテスです。家康は、造船・航海術・数学・物理・気象学・宇宙論(地球の形や天体の運行、月の満ち欠け)・幾何学などを65歳にして学び、多くを理解していたと云われています。

実は日本に最初に来たアダムズは、ジョナサン・スウィフトの『ガリバーの



アダムズが測量した日本地図(在オランダ)

戦争が起こるからです。当時の地図には、アリューシャン列島は描かれていませんが、北海道の概念はなく、そこには北方航路があると考えられていたのです。アダムズの測量した日本地図がオランダにあり、アダムズが測量したことが記載されていますが、これも日本ではまだ紹介されていません。伊能忠敬が日本地図を作る前に、これだけの日本地図がアダムズによって作成されていたことに驚きます。

少し遅れて、伊達正宗は、慶長の遣欧使節をヨーロッパに派遣します。そこで家康は、家康の海軍にアダムズとともに関わっていた向井将監を伊達正宗の造船に協力させています。向井将監の墓は、清水区の清見寺にあります。支倉常長は、こうして完成した船でローマに向かいます。支倉の乗った船（ビスカイノもこの船で帰国）は、アカプルコに無事に到着します。その船は「サンファン・デ・バプティスタ号」（洗礼の意味）とスペイン語の名前が付けられましたが、日本名は不明です。

幸い、船の形が絵に残されていたことから、宮城県慶長使節船ミュージアム（サン・ファン館）では16億円の巨費を投じて再現しました。ところが今度の東日本大震災でマストその他を破損し



アンジェリスの北方地図

旅行記』の中で、唯一実在の人物として登場しています。極東の日本で活躍していたアダムズは、イギリスでも大変有名だったのです。このこともあまり知られていませんが、これらを世に出したのはNHKの教育番組でした。ウィリアム・アダムズは「イギリスが日本と交易するには、新たな航路が必要だ」と家康に進言して

います。スペインやポルトガルと同じ航路では



伊達正宗が造船し支倉常長を送った船

(元絵は、スペインの貴族が所蔵)

たため、現在修理しております。宮城県石巻市渡波大森にあります。

アダムズ、北方航路発見のため探検隊を派遣か？

アダムズは「北方地域に謎の空間があり、その航路をイギリス国王も探している」と言って、世界地図を持ち出して駿府城内で家康に説明しています。アダムズが本国に送った書簡は、現在イギリスに12通あり、アダムズも日本近海に金銀島があると信じていた模様でした。だから、いろいろな人が日本を目指して航海して来ましたが、アンジェリスの描いた北方地図によると、直接イギリスに通じる航路があると真剣に考えていた模様です。事実、イギリス国王は、ノルウェーに向けて、日本に通じるシールート発見の探検隊も



国際歴史フォーラムのポスター

記述しています。

このようなメッセージは、もっと日本から発信すべきですが、日本の文化庁は何も調査していないのが残念です。また、ビスカイノは「駿府城は堅固なること巧妙にして……」と駿府城の美しさを讃美しています。私が最も刺激を受けた人に、東京大学大学院教授をされていたロナルド・トビ先生（現在イリノイ大学教授）がおります。トビ先生は「私たちは世界の家康を知らない」、「私たちは世界の駿府を知らない」と云うのです。

そこで私は、駿府城天守の調査が終わると「国際歴史フォーラム」を静岡市で主催し、日本とりわけ駿府を研究している多くの外国人研究者の中から、通訳なしの美しい日本語で語っていただける方々に参加してもらいました。その時、トビ先生から、ここでも「私たちは、世界の家康を知らない」、「私たちは世界の駿府を知らない」、「その時を告げたのも家康だった」という名言をいただき、分科会やシンポジウムを実施しました。

このシンポジウムには、キリシタン研究の日本の第一人者である慶応義塾大学教授の高瀬弘一郎先生のご参加もお願いしました。



ロナルド・トビ博士と私

駿府・静岡から大航海時代を見直したい

次に駿府城下町。この城下町は、周囲を山で囲まれ、結界のように敵の侵入を防いでいます。奈良の都が七大寺で守られていたように、駿府の地も駿河七観音のご加護を受けた別天地です。その中心が浅間神社で、しかも気候も穏やかな土地、家康は今川氏の人質時代からここで過ごしたので、大御所の地を駿府と決めたのです。しかも駿府は日本の中心、駿府大御所時代は日本の政治経済の真ただ中でありましたが、そのことすら全く全国どころか市民にも知られていない現状であり、誠に残念なことです。

私は新幹線の停車する目立つ位置に、電光掲示板でこのことを表示すべきと

送っていました。勿論、そんな海路は陸地に阻まれて存在しません。

話は変わりますが、そんな時に日本に来た外国人たちは、駿府城下町を見て、「こんなに綺麗で清潔な町を見たことが無い」とびっくりしているのです。今の日本はパワーがなく、韓国にも周回遅れの部分を感じられますが、こうした現状の中で、駿府から、大御所時代から、世界に向けて情報発信しなければいけないと私は考えております。

スペイン人に云わせると、日本はキリスト教を信じていないから野蛮な国だとも呼んでいましたが、それ以外はスペインよりも住み易く、ドン・ロドリゴは「マドリッドで年金生活するよりも、この国がキリスト教の国なら、この清潔な駿府で年金生活したい」と彼の著書の中で

考えています。しかもトビ先生のメッセージとして。皆さんご存知の通り、仁川空港から世界に飛び立つ、世界中で最も良い場所の広告は、今ではハングル文字に代わっています。かつては日本の車の宣伝のスペースでしたが、現在では韓国の現代自動車やサムスン電子の広告に置き換わっているのを御存知ですか。そのうえ、昔は「コンニチワ、社長、これ買ってよ」と云って近づいて来たのが、今では「カムサハムニダ」とか「アンニョンハシムニカ」と韓国語で声をかけられるのが現状です。

この危機感を日本は何も訴えていない。まだバブルの絶頂期のようなものがチラついているのです。バブルで浮かれている時に、日本は足元をすっかり掬われ、日本のエルピーダが大変な負債を抱えて潰れましたね。逆にサムスン電子は現在、半導体の世界シェア70%以上を占めているのです。

そのうえ、パナソニックやソニー製品も低調で1万人余のリストラが計画されており、多くの優秀な日本人技術者がヘッドハンティングされている日本の現状を見ると、もっと日本を世界に訴えなければならぬと思うのです。

駿府を上空から見てみましょう。四百年前に家康は、安倍川の流れを変更し、藁科川と一体化させ、城下町を洪水から守るために薩摩藩によって薩摩土手を築きます。この時、アダムズの提案で、安倍川を運河として利用し、安倍川左岸に城を造り、世界のガレオン船が天守の真下に停泊できる港を計画していたことが幾つかの資料に記されています。しかし、安倍川の流れが余りに激しいために実現せず、これは幻の川野辺城となってしまいました。アダムズがイギリスの同朋に送った書簡にも、このことが登場します。結果的には、駿府城は洪水を避けて現在地に築かれました。



アダムズ提案の港と城の一体計画(国土交通省蔵)

(元図 黒澤 脩 作図)

駿府で咲いた江戸の華

前述しましたが、江戸時代の初めに完璧な城下町として登場したのは駿府城下町でした。この頃は、江戸城下も工事中で、名古屋に至っては城さえ出来ていません。名古屋城は慶長16年(1611)に昔の清州城を移し、堀川を造って整備が始まります。また、名古屋は東海道が通っていないため、江戸と京都の間では、駿府が一番大きな城下町ということになります。

駿府城下町は、長い戦国時代から抜け出し、平和な日本が始まるシンボルとして出現した城と町ということになります。徳川家康は、それをアピールするため、平和な城として駿府城を築城しました。城下には東海道が走り、鉤の手状に屈折しています。これは、旅人を攪乱させる目的と、



江戸時代最初に完成した駿府城下町

(駿府城東御門内に展示)

美しい天守をそれぞれの角度(アングル)から見せる場所を造った設計となっています。つまり、安倍川は川越人足に背負われて渡ります。そして、ようやく駿府に到着した旅人たちは、駿府城の天守が美しく眼前に現れ、富士山が城を包むように登場します。駿府城を美しく見せる最大限の仕掛けを計画的に造った町でした。これを学問的に研究した、東京都立大学の桐敷真次郎教授の『慶長・寛永期駿府における都市景観設計』という論文があります。

江戸城下の設計は、駿府城下と全くシンメトリーに出来ています。特に日本橋付近は、駿府出身者たちが造った町で駿河町と呼ばれ、彼らは故郷の駿府から見た富士山と同様、裏側から見た風景を同じ様式で造り、懐かしい駿府を回想していたと伝えられています。このように駿府から江戸に移った人が造った町は沢山あります。たとえば、前述の駿河町のほか、阿部川町・今川町・三組町・駿河台など。このほかにも多くの町が駿府出身者によって造られました。江戸の銀座も、駿府から移った職人が拓いた町でした。

外国人の見た駿府城下町

ドン・ロドリゴは、駿府に来た時、道がすべて濡れていることに気付きます。そして、これは駿府用水の水の流れを堰き止め、水を一時的にオーバーフローさせて、夏は涼しく、また埃を防ぐ役目をさせているということと見聞しています。



ニューヨークもブタを放し飼いにし、街の生ゴミを掃除させていた。19世紀初頭のニューヨーク・ブロードウェー

当時のロンドンやパリは、石造りの街並みで一見美しく立ち並びます。ところが、家の中にはトイレもなく、人々はオマルで生活していました。このため、夜になると建物から路上に糞尿が撒かれて、街は非常に不潔でした。このためフランスでは、香水が生まれ、また糞尿を避けるためハイヒールが考案されたのです。また、ルイ14世がベルサイユ宮殿に逃げたのも、パリの街中が臭くてたまらなかったから

だと言われている。

ニューヨークのブロードウェーでは19世紀初めまで、街中に生ゴミが多く、また糞が溢れており、それを掃除するためにブタが放し飼いにされていた様子を示す多くのイラストが残されています。

だから、日本に来た人たちは、着飾った人たちが町中を美しく歩いていることに強烈なカルチャーショックを受けたようです。

アメリカ人の見た徳川家康

アメリカにマイケル・アームストロングという文筆家があります。約35年前、彼は「アメリカ人のみた徳川家康」(日新報道出版部刊)という本を書いています。彼は、3人のアメリカ大統領が成し遂げたことを、徳川家康はたった1人で行ったと徳川家康成功の秘密を分析しています。つまりワシントンが United States of America を作る前に、日本では家康が United States of Tokugawa を作っていたと云うのです。さらにジェファーソンは、世の中を武器で治めるの

ではなく、法律で治める法治国家を目指しました、これと同じことを家康はもっと早くやっていたのです。また、リンカーンの南北戦争を引き合いに出して、家康の関ヶ原の戦いを論じています。この時、もし決着が付いていなければ、日本は戦国社会に後戻りであったように、アメリカもこれと同じ意味合いの南北戦争を経験しており、失敗すれば昔のインディアンの時代に戻ったであろう。全く同じことを、徳川家康はすでに関ヶ原の戦いで事例を見せていたと説いています。彼は **United States of Tokugawa** をパックス徳川(トクガワナ)とも呼んでいます。著者マイケルは、徳川家康のこの見事な功績を日本人は真剣に受け取っていない。もっと徳川家康を評価すべきと指摘しています。もしアメリカ人なら、徳川家康がやったことについて、過去に遡ってノーベル平和賞を申請するでしょうとも書いています。このように、海外の人たちは家康を極めて真摯に真面目に真剣に、しかも新鮮に受け止めています、日本人は逆にクールにとらえていることが心配です。

さらに彼は、日米の比較をして、葵の紋章に対してアメリカの星条旗、幕府の法令整備に対してアメリカの独立宣言や合衆国憲法、それに関ヶ原の戦いに対して南北戦争と、鋭い分析を加えております。アメリカでは、小・中・高の教室には必ず星条旗が教室の横に置かれ、合衆国の歌を合唱してから授業が始まります。ところが日本は国旗さえも大切にしないで、また世界が評価する徳川家康を狸親爺と、こき下ろしているのが平均的日本人の姿です。この考え方は、明治政府が作ったものですが、未だに払拭されていないのが現状です。

また、家康の凄さを世に公表した人物にイギリス人ジェームズ・クラベルがおり、『将軍』を執筆しました。そして、山岡荘八の『徳川家康』は、アメリカでベストセラーとなり、続いて韓国・ロシア・中国でも読まれました。なぜ、世界の経営者たちは、400年前の徳川家康をこのように話題にするのか？それは400年前のあの時代、徳川家康は経営感覚を持ち、新しい発想で物事を推し進めたことにあります。当時はそのような概念すら無かった時代ですが、家康は、その手本を見せていたことになります。我々日本人も再度、徳川家康に学び、行動したいと実感します。

静岡県知事の川勝平太氏も、オックスフォード大学留学中に、家康の海外の文献を研究し、翻訳していた一人です。『鉄砲を捨てた日本人』(ノエル・ペリン著)など、家康に関する訳本や著書や論文を数多く著しています。

P・C・ロジャーズ著『日本にきた最初のイギリス人ーウィリアム・アダムズ』には、知られざる日本や駿府のことが沢山書かれています。

多くの日本人は、駿府の大御所家康を未だに「ただここに隠居に来た」と捉えている人が圧倒的に多いです。そんななか、オランダのライデン大学教授のウィレム・ボート博士は、「駿府に家康のための博物館を作るべきだ」と主張されていました。世界の人々は、このように家康に注目しているわけですが、依然として静岡市は地面の下ばかりを見ている(考古学)のが現状です。地面の上を研究する優秀な学芸員の登場が求められているのです。

ジャイルズ・ミルトン著『さむらいウィリアム』も、ぜひ紹介したいと思います。日本人は海外の文献をもっと利用し、家康やアダムズのことを本格的に深く研究すべきであります。外国人がもたらした新しい言葉、これは言葉の上



東大史料編纂所海外特殊資料

編纂所では、それらの文献を当時来日した国々の現在言語で読める状態に国費ですべて翻訳しています。当時、東大に在籍していたトビ先生の話ですと、それを使って研究している人の大半は外国人であり、日本人の研究者はあまり利用していないとのことでした。

私はトビ先生の支援を得て、全国の大学関係者に通知して静岡で徳川家康国際フォーラムを企画(シンポジウムや分科会)したことがあります。バブル末期であったため、3千万円の予算を計上していただきましたが、結果的には1千2百万円でした。残りの1千8百万円は不要額として市に戻しました。行政は与えられた予算を全部使い切らなければ、何か仕事をしていないとか手抜きと見られるのが現状です。またトビ先生の話によると、中国の上海博物館が所蔵する江戸時代初期の世界地図では、日本の首都が駿府になっていると伺いました。

その他、アラカルト

縁起が良いとされる「一富士 二鷹 三茄子」、これは家康のお膝元の三保半島でのことを物語っているものです。舞台は三保の松原で知られる折戸が舞台です。家康はこの付近に別荘を二か所所有していました。そのうえ、大御所の海軍も三保に配置されていたのです。その茄子ですが、実はこの茄子は家康のために栽培されていたものです。そのことを証明する浮世絵の原画が、奈良県立美術館に残されており、地元で発見された古文書などで、この研究が進んでいます。そんな三保の松原のある清水湊には、慶長12年(1607年)にポ



ルトガル船が来港しています。その様子を描いた見事な屏風を、九州国立博物館が「南蛮船駿河湾来航図」として所蔵しております。

家康は江戸初期の政治・経済・文化活動など、あらゆることを駿府で立案し実行しています。経済流通のために、駿河小判を鑄造し、駿府銀座では銀貨が造られていました。貨幣制度の確立のために、家康は戦国時代の弊害を取り除き、全国で通用する貨幣を造らせていたのです。本物は、日本銀行金融研究所貨幣博物館にありますので、ご覧ください。また、秤座は今川時代からの守随に掌握させています。いまでも銀座界隈に守随ビルがあり、江戸の秤座の跡地で

駿河小判(日銀蔵) ある京橋にはモニュメントがあります。現在の日本銀行静岡支店、ここは駿府金座があった場所で、両替町二丁目(現一丁目)は駿府銀座が置かれていた場所でした。



駿府城下町絵図複製(黒澤蔵)

静岡県立静岡高校では、日本史の教師が3人いました。それが今では2人になっているのが現状です。

最近失望したことは、著名な国立大学の卒業生ですら毛沢東を「けざわひがし」、聖一国師を「ひじりいっこくし」などど読む人が現れていることです。これは本当の話です。受験のためには一生懸命に勉強しますが、バックグラウンドが形成されていないのです。また全共闘時代に、多くの大学の教養学部が潰されました。つまり「日本史は世界史の中で教育すればよい」という風潮が起り、高校生が日本史を選択しなくなってしまった現状があります。

私がお世話になったオックスフォード大学のブラウン教授は、日本の将来を大変心配していました。マヤ、アステカ、オルメカなどの古代文明は失われたが、日本の徳川時代は、鎖国で260年間余り国が閉ざされていたため、奇跡的に独自の徳川文明を今でも持っている。そこが日本の魅力と語っていました。にも拘わらず、大航海時代の本家である駿府=静岡市にも、静岡県にも、公の施設としての博物館がないのが現状です。全国47都道府県の中で、静岡県と奈良県だけに県立博物館がありません。ただし、奈良県は、そのものが「屋根のない博物館」であり、国立博物館がキチンと機能しています。博物館は、費用対効果で論ずるべきものではないと私は考えています。それは学校と同じです。

徳川家康は活字人間でした。家康は朝鮮木活字を銅活字に鋳造させ、駿府城内に印刷工房を造って書籍を刊行していたのです。家康は先見的姿勢で、駿府から多くの文化を発信していました。

駿府城下町にしても、極めてダイナミックに近世最初の町を造りました。古いしがらみや過去の亡霊や伝統や因習に拘らないで実行しています。それが江戸初期の駿府大御所時代でした。

最後に

最後に、天守閣の話をして終わります。静岡市では、駿府城を造りたいという動きはありますが、幾つかの手違いで、いまだに全体のコンセンサスを得るに至っていません。まず史料探しが先決として、私は市長の特命により駿府城天守の調査に着手しました。世界の主要な大学や研究機関には、英語・スペイ

また徳川家康は、中世ヨーロッパの三大革命である火薬・羅針盤・印刷技術を基に、鉄砲・大砲、造船技術・航海技術などすべてを駿府でクリアしています。時間がないので割愛しますが、江戸の多くの起源を紐解くと、それらの多くが駿府から始まったことに気が付くはずです。東京=江戸は通じますが、静岡=駿府は地元でも通じない節があります。誠に残念ではありません。

歴史を正しく後世に伝えたいものです。なぜ、そうならないのか、現在、高校では日本史は選択科目であり、日本史を選択する生徒が激減しています。昔の静岡



銅活字印刷(凸版印刷蔵)と群書治要



重文日光東照宮縁起絵巻(日光東照宮蔵)

アメリカでは全米の学芸員の会議で発表し、静岡市の調査に協力したい旨の連絡をいただきました。

多くの史料調査を経て、駿府城天守を完全に立派な城として復元して建てられる可能性がでてきました。駿府の天守は過去二度も火災に遭遇し、建て替えられています。しかし最後に建てられた天守(1535年に焼失)の実態については調査の結果、いろいろと新事実が判明しています。日光東照宮の絵巻、和歌山県の紀州東照宮の絵巻にも描かれています。絵師は二人とも幕府の御用絵師ですが、それぞれ立派な駿府城天守の姿を残しております。

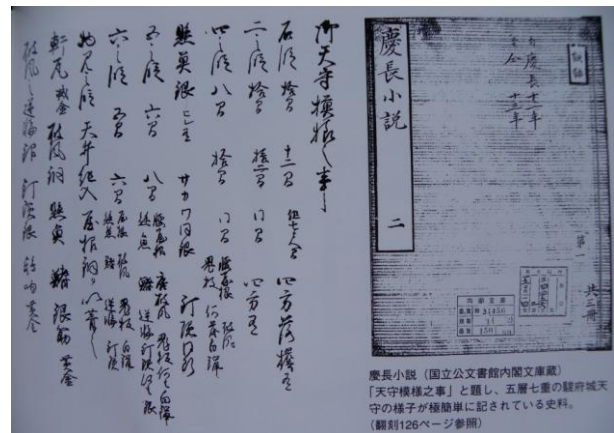
私は、駿府城天守の調査にあたり、最初は指図(設計図)や古文書古記録を中心に調査していました。ところが、巻物の中に何かヒントがある筈と気が付き、あらゆる機関に絵巻の調査を依頼しました。普段、絵巻は巻いた状態で広げることが少ないのです。そこで趣旨をお話しし、調査をお願いしたところ沢山出て来ました。ところが、期待できるものは少ないのです。

それらの中で、幕府御用絵師の描いた絵は信頼できることが、前述の二人の絵を広げてみてわかり、驚きました。全く同じ天守が描かれているのです。その結果、この絵巻から駿府城がいかに豪華であったかを見つけることができました。なかでも狩野探幽が描いた駿府城天守は見事です。

そもそも指図とは、設計図であり骨組みだけで外観がわかりません。レントゲンにたとえると、骸骨そのものです。ところが絵巻は、そのもののカラーリングも理解でき、加えてディテールも繊細です。さらに家康の学導師範の林羅山が文字で記録に残した情報は、この絵柄(巻物)そのものでした。日光にしても、紀州にしても、オランダ国立民俗学博物館の絵巻にしても共通しているのです。

しかも早稲田大学には、明治初期の駿府城の天守の土台が写真で残されています。私は、このような貴重な調査をさせていただいたことに対して深く感謝し、その成果を多くの方々に知らせるのが、これからの義務と感じております。駿府城は世界の人達が称賛した城です、ぜひとも駿府城天守復元を視野に入れ、これからは駿府=静岡となるよう、徳川家康の駿府大御所時代と大航海時代を世

ン語・フランス語・ポルトガル語で文書を出し、そこに日本語の文書を付与しました。つまり昔の古文書形式で、「一筆啓申上候御事、陳者今般我市駿府城天守調査有之候、・・(中略)・・頓首敬白」と、市長名で書家に頼み、毛筆で、昔の書体の文書を送りました。もちろん、訳文をつけましたが。これは非常に効果があり、日本でそのようなことをしているなら、



『慶長小説』所収「御天守模様之事」(国立公文書館蔵)

界に大きく発信したいと考えております。ご清聴、ありがとうございました。

黒澤 脩氏経歴 神奈川県立大学経済学部貿易科卒 静岡市教育委員会事務局参与を最後に退職
 元静岡県立大学非常勤講師 学生時代一年間(1968年)休学し、アメリカ・メキシコ・カナダを放浪する
 (記録：高橋豊)

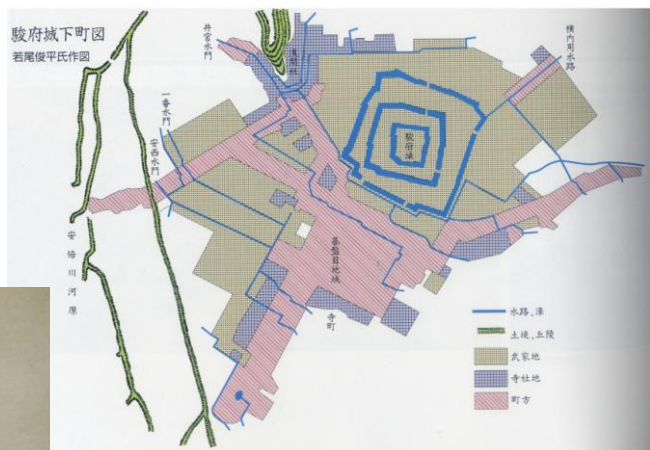
駿府城下町と天守閣について



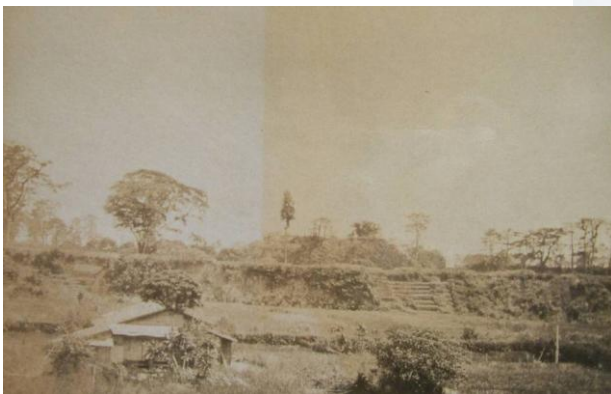
駿府図(静嘉堂文庫蔵) 慶長一元和年間



前例のない天守丸構造の駿府城天守



駿府城下町模式図



駿府城天守台写真(早稲田大学図書館所蔵)

この写真によって、天守丸構造が証明された